

## <変形性関節症>

今回は、糖尿病と関連の深い変形性関節症について、日本整形外科学会のホームページを紹介します。

**症状:** 関節周囲の疼痛、腫脹、引っ掛かり感、違和感などがあります。

**原因と病態:** 関節表面を覆う関節軟骨は軟骨細胞と関節外の 2 型コラーゲンとプロテオグリカン (糖タンパク) が主成分です。関節軟骨には血行や神経線維の分布はありません。関節症では機械的刺激などにより軟骨の変性・磨耗を生じ、また関節周囲を取り囲む滑膜の炎症が併発して変性が加速します。同時に関節周囲の骨軟骨形成などの増殖性変化を伴うこともあります。

それらの変化により血管増生や神経線維の増生をとまなう関節包の線維化が起こり痛みが感じやすくなります。



※プロテオグリカン：多くの糖鎖が結合した糖蛋白質の一種。動物の軟骨の主成分である。

図1 正常と変形性関節症の軟骨の模式図  
関節の中では荷重関節として膝関節、股関節の関節症が重要です。上肢では労働者の肘関節がしばしば問題となります。50 歳以上の 1000 万人が変形性膝関節症による膝痛を経験しています。病態と症状の関連としては、関節炎に伴う自発的疼痛と腫脹、腫脹による動かしにくさや可動域制限が生じます。軟骨磨耗の進行により関節炎が起こりやすくなり、荷重の繰り返しにより疼痛を

感じやすくなります。

軟骨が消失するとある程度以上の荷重刺激により疼痛を感じ、それを繰り返して徐々に悪化していきます。関節炎の繰り返しにより関節包の線維化が進行し、疼痛閾値が低下していきます。動き始めの動かしにくさも目立ってきます。広範囲に軟骨が消失すると関節への負荷により疼痛を生じやすくなり、可動域制限が増悪し、動かしにくくなります。骨棘形成が進行すると関節拘縮を起こしやすくなります。

種々の炎症性疾患、軟骨脆弱性の素因、外傷、関節形成不全、関節動揺性が関節症発症の原因となり悪化の誘因となります。関節への負荷により軟骨磨耗から骨組織の破壊が生じると関節は変形し、変形と症状の悪化の悪循環を起こします。

**診断:** 通常上記の症状と年齢、病歴より、最も頻度が高い関節症を疑います。X線 (レントゲン) 写真による骨棘形成、関節裂隙の狭小化、軟骨下骨の硬化、関節裂隙の消失などで診断します。

**予防と治療:** 関節症の発症は、種々の遺伝子素因を背景として、使いすぎや体重負荷、外傷を契機に軟骨磨耗が起こり、進行して発症します。しかし必ずしも軟骨磨耗によって症状が起こるとは限りません。したがって症状が起こってからではじめて診断がつくことも多いです。このため股関節や膝関節のように関節症の頻度が高く、重症化すると ADL 障害が大きく、時に手術的加療が必要になる関節では、定期的な診断をうけることが、進行予防に大切です。

## <花物語>

今回の花物語は、黄耨（おうばい）を取り上げます。

黄耨は、梅の名前が付いていますが、梅の仲間ではなくて、モクセイ科の落葉低木です。半蔓状で、叢生、地面に垂れて発根します。今の時期、葉の出るのに先立ち鮮黄色、六弁の小さな筒状花をつけます。

地にちかく咲く黄耨を見さだめし細田寿郎

日本大歳時記 講談社より

## <土佐の風景>



<緊急時の連絡について> 体の調子が悪くなったとき、診療時間内で あれば、088-872-5500 に、夜間、休日の場 合は、090-8283-1525 に電話して下さい。対応いたします。

### #入院の必要な患者さんへ

当院で入院が必要と考えられた患者さんは、高知赤十字病院、岡村病院に入院していただき、私が週に 2-3 回入院中の病院に出向いて、診察をさせていただき、病院の主治医の先生と相談しながら、治療を行います。\*現在は、コロナ感染症の影響で訪問を自粛させていただいています。



今回は、江ノ口川周辺の黄耨を載せました。黄耨の前の川を鴨がゆったりと泳いでる様子は、心安まります。

No. 336 2023 年 3 月号

## <土佐の史蹟>

今回、桜馬場で、谷垣守、眞潮邸址の石碑を見つけました。今回は、この二人について書いてみます。



谷垣守（通称丹四郎）は、土佐南学派の祖である谷秦山の長子として、元禄11(1698)年に城下北部の秦泉寺村に生まれ、儒学や国学など幅広く学問を修めています。

父秦山は、6代藩主豊隆襲封の時におきた政変に連座して、山田村（現土佐山田町）へ蟄居の処分を受けています。しかしその後死ぬまで門人や自分の子息たちに教授

を続けました。父が逝去して7年後の享保9(1724)年、垣守は他国遊学が認められ、玉木葦斎や賀茂真淵など、全国の第一線で活躍する学者に師事し、国学と神道を中心に学問を続けています。その結果、後の垣守の学問は、儒学を機軸とした父の学風に加え、国学を追求して新しい境地が加わり、この学風が実子眞潮に受け継がれています。

その子谷眞潮は享保14年(1729)に谷垣守の長男として生まれ、通称・丹内、号・北溪と言う、儒学者・国学者・政治家である。家学を学び、後、賀茂真淵に国学を学び、宮地仲枝や今村楽らを育てている。宝暦10年(1760)、藩校・教授館教授となり、後、浦奉行となり、土佐の海岸地方の民族・政情を視察し「東西廻浦日記」を残したが、単なる学者に留まらなかったと言われている。

また、天明2年(1782)から天明8年(1788)にかけて発生した天明の大飢饉の際に、藩内の改革にあたるため藩主・山内豊雍の英断により谷眞潮も抜擢され、郡奉行・普請奉行を経て大目付の重職に付き、改革政治を断行した。晩年は、政治から退き、教授役に専念し、寛政9年(1797)68歳で亡くなっています。

この二人の教えの中心にあったのが「神道、有職、歌道」であり、土佐における尊王攘夷思想に大きな影響を与え、一方、鹿持雅澄に続く土佐の万葉集研究の礎になったと思います。坂本龍馬の和歌が残さいることや武市瑞山をはじめとして勤皇党の志士が辞世の和歌を残していることが理解出来ます。和歌が教養の一部であったのですね。

## 〈散歩道〉

今回の散歩道は、最近、興味を持っていません社会関係資本について書いてみます。

社会関係資本（しゃかいかんけいしほん）とは、社会学、政治学、経済学、経営学などにおいて用いられる概念です。人々の協同行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念であります。人間関係資本（にんげんかんけいしほん）、社交資本（しゃこうしほん）、市民社会資本（しみんしゃかいしほん）とも訳されています。基本的な定義としては、人々が持つ信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）のことです。上下関係の厳しい垂直的人間関係でなく、平等主義的な、水平的人間関係を意味することが多いです。

例えば、A、B地区において、10人のお百姓さんが1000坪の稲作を行っているとしたら。A地区では、お互いの人間関係が良く、協力し、お互いの意見を述べながら、力を合わせて作業をしています。一方、B地区では、そのような協力関係はなく、個人個人が従来の自分のやり方でやっています。数年経ちますと、A地区はB地区に比べて、稲の収穫量、品質も良くなり、経済的にも豊かになるという考え方です。このA地区とB地区の経済的な差を社会関係が生み出した資本と考えるのです。

パットナムは、社会関係資本が豊かであることの意義とは、市民や地域全体のつながりの重要性を示しています。彼は社会資

本を測る指標として、地域組織や団体での活動の頻度、投票率、ボランティア活動、友人や知人とのつながり、社会への信頼度をあげています。社会関係資本が豊かな地域は、政治的コミットメントの拡大、子供の教育成果の向上や、近隣の治安の向上、地域経済の発展、地域住民の健康状態の向上など、経済面社会面において好ましい効果をもたらしていると指摘しています。

これらを考えると、昔の日本にあって、今の日本に欠けているもののような気がします。国政選挙の投票率が50%以下であることや地域の清掃活動での参加者が少ないことなどで感じます。昔は、協力していかないと生きていけなかったのですが、今は、協力的で、独りでも生きていけるからだと思えます。

今、高知県や市町村では、地域共生社会の構築ということでいろいろと動いているようですが、具体的には、なかなか難しいことがあるようです。会社や町内会などのもう少し小さな集団でも、1)お互いさまですよ。2)仲良く助け合いましょう。3)コミュニケーションをよくしましょう。ということの気持ちを持つことがこのような社会を作る基礎になるような気がします。ふと、思うと、私の大学時代の野球部は、こんな感じであったようですし、友人たちとの関係でもそうだったように思います。皆で協力して試験対策をしたり、いろいろな面で助けあっていたように思います。

今、一度、このような社会で暮らしていければと思っています。